（第三種郵便物認可）　2004年（平成16年）6月29日（火曜日）

▲27日には作ったEM団子を川に入れる活動が行われた

足立・八潮間の垳川

ドロドロをサラサラに

浄化作戦　広がる輪

6/29 読売 江東版

足立区と埼玉県八潮市の境を流れる垳川（がけがわ）を浄化しようと、地元町会や学校などが参加して「垳川ジャブジャブ大作戦」を展開している。二年目となる今年は、八潮市の町会も参加するなど、活動に広がりを見せている。

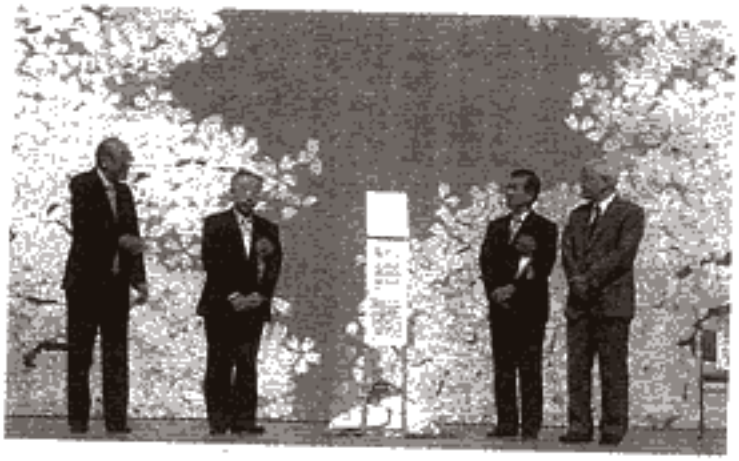
垳川は綾瀬川と中川をつなぐ約二・三キロの川。川の両側が水門で閉められているため、流れが少ない。特に綾瀬川寄りの川には落ち葉がたまり、ヘドロが一メートルも堆積（たいせき）し、悪臭を放っている。

このため、NPO「足立グリーンプロジェクト」が昨年、地元町会などに呼びかけ、浄化作戦を展開した。今年もNPOや地元町会など約三十人でプロジェクトチームを作り、今月から活動を始めた。活動には、区内の地元七町会のほか、ボランティア団体、八潮市の二町会の有志でつくる「八潮の川をきれいにする会」などが参加。区立六木小や区立十三中では授業の一環として活動に取り組んでいる。

活動の中心は、ヘドロを分解するEM菌（有用微生物群）を土に混ぜたEM団子を作り、川に入れること。昨年は約二万七千個を投入した結果、ヘドロが十五ヂッほど減ったという。今年も同数程度の団子を投入する予定で、二十七日には一回目の団子投入が行われ、約百五十人が約三千五百個を投げ入れた。

また、今年は新たな取り組みとして、川にいかだを浮かべ、その上で窒素やリンの吸収に優れた中国の野菜「空心菜」を育てる。空心菜は窒素やリンを栄養分にしているため、それらを多量に含むヘドロを分解する。さらに独協大の学生約二十五人が親子環境教室を企画、八月に二日間、講師を招いて川を浄化する方法などを一緒に考える。

この作戦の事務局長で、足立グリーンプロジェクト代表の平田裕之さん(30)は「無関心が川を汚す一番の原因。まずは地域の住民に川に関心を持ってもらいたい。活動を通して住民同士のつながりもできたらいいと思う」と話す。活動は十月まで。参加者は随時募集



故加山又造さん作

「どん帳」の〝心〟　後世に